



ショーン・ターバック
ICMIF（国際協同組合保険連合）
事務局長

ショーン・ターバック氏は、1995年に会員対応および財務担当責任者としてICMIFに入り、2005年に事務局長に任命されました。彼の監督のもとで、ICMIFの会員数は1995年の70団体から、今日では75か国・290団体にまで成長しました。これと同時にICMIFは、無名の国際的組織から、グローバルな議論と政策決定に参加する世界的に最も尊敬される組織の一員となりました。ICMIFはブリュッセル、ワシントン、東京に地域協会を構えており、ターバック氏はICMIFおよび一部地域協会の理事のほか、新たに創設されたICMIF財団の副会長を務めています。

ターバック氏は、主要なグローバル政策立案者との協働関係を築いてきましたが、その範囲は気候変動、災害リスクからの回復力、貧困削減、経済成長、規制・立法といった様々な分野に及んでいます。これには、G20とB20（2014年からB20の「成長・インフラ金融タスクフォース」のメンバーとなっている）のほか、国際連合（国連総会で演説）、国連国際防災戦略事務局【UNISDR】（金融システムへのリスクの統合について国連防災世界会議で演説）、国連開発計画【UNDP】、国際通貨基金【IMF】、世界銀行、経済協力開発機構【OECD】、そしてさらに保険に特化した分野である金融安定委員会【FSB】および国際保険監督者協会【IAIS】との定期的な連絡が含まれます。

さらにターバック氏は、新しく設立された保険開発フォーラム【IDF】の運営グループ（保険業界の指導者と、国連・世界銀行・金融安定委員会の政策立案者が集まり、保険に関する問題をトップレベルで議論）の職権上のメンバーであり、また、IDFマイクロ保険タスクフォースの共同議長です。IDFの使命は、「持続的な成長と人間の尊厳のための弾力性のあるプラットフォームを創出するため、リスクを理解する」ことです。

彼は、ミューチャリティ、規制、ガバナンス、マーケティング、ブランド化、協同組合・相互扶助組織の保険セクターさらには保険セクター全体に影響を及ぼすような他の戦略的課題について、定期的に会議や会員組織の理事会などで話しをしています。また、リーダーシップに関する記事を執筆したりブログを書いたりしており、定期的にグローバルな保険メディ

アのインタビュー（文書または映像）を受けています。加えて彼は、このセクターに関するいくつかの研究プロジェクトに貢献してきました。

ターバック氏は、グリーンボンド¹の発行を促進する「気候債券イニシアチブ」²の理事を務めるとともに、レジス・ミューチャル・マネージメント社³（相互扶助組織の保険の新規立ち上げ・運営を行なう団体）の理事でもあります。余暇には、複数の地元校が所属するダナム・トラスト⁴のディレクターを務めています。

家族は、妻フランチェスカと成人した4人の子供たちです。彼は公認会計士でもあります。彼は、多くのスポーツに情熱を持っていますが、特にラグビーは自らプレーし、コーチや審判も務めてきました。現在は、ゴルフとサイクリングを楽しんでいます。

¹ 資本市場から温暖化対策や環境プロジェクトの資金を調達するために発行される債券のこと

² the Climate Bonds Initiative（国際的な低炭素経済を推進する投資家の国際的 NPO）

³ Regis Mutual Management Limited

⁴ Dunham Trust